平成25年（2013）
県政記録
いしかわ

提供：JR東日本

はじめに

平成25年の県政は、平成27年春に迫る北陸新幹線の金沢開業に向けての諸準備をはじめ、さまざまな取り組みが「加速」、「進展」した1年でありました。

北陸新幹線の運行体系の概要と列車名が決定し、並行在来線を運営する「IRいしかわ鉄道㈱」は、12月に鉄道事業の許可申請を行いました。

そして、陸・海・空の交通基盤の整備が飛躍的に進んだ年でもありました。「能登有料道路」「川北大橋有料道路」「田鶴浜道路」を3月31日に前倒して無料化し、能登有料道路については新愛称を「ふるさと紀行『のと里山海道』」としました。金沢港には、過去最高となる18隻ものクルーズ船が寄港し多くの乗客を受け入れたほか、小松空港の利便性向上にむけて、国内線では羽田、福岡、仙台各便が増便され、能登空港は7月に開港10周年を迎えました。

5月には、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を舞台に「世界農業遺産国際会議」が日本で初めて開催され、宝達志水町が認定地に新たに加わりました。また、皇太子殿下ご臨席のもと開催された「第16回全国農業担い手サミット」では全国の認定農業者らが交流を深めました。

そのほか、地域防災計画の見直しや県民一斉防災訓練（シェイクアウトいしかわ）の実施、県立中央病院の実施設計に着手したほか、消防防災ヘリコプターにより重症患者を救急搬送するシステムの運用を開始するなど、県民の安全・安心も着実に前進しました。

この県政記録は、こうした平成25年における県政の成果をまとめたものです。幅広くご活用いただき、県政に対してより一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ふるさと紀行「のと里山海道（さとやまかいどう）」

無料化された「のと里山海道」今浜IC付近（平成25年10月14日撮影）

3月31日正午、県内の有料道路である、「能登有料道路」、「田鶴浜道路」「川北大橋有料道路」を同時に無料化しました。併せて、昭和57年に全線供用を開始した「能登有料道路」の新たな愛称を『ふるさと紀行「のと里山海道」』としました。

当日は、横田料金所および川北料金所において、くす玉開披による無料化開始式を行ったほか、別所岳SAでは、「のと里山海道」の記念碑除幕も行いました。

また、無料化前の3月には能登有料道路直線化区間の金沢市粟崎町4丁目から内灘町大根布間、金沢外環状道路海側幹線Ⅲ期区間の金沢市鞍月から大河端（おこばた）間が供用を開始したことにより、金沢中心部と能登のアクセスがより便利になりました。

引き続き、「のと里山海道」の利便性の向上を図るため、サービスエリアなどのリニューアルを進めているほか、北陸新幹線金沢開業効果を県内全域に波及させるため、新愛称の定着と能登への誘客拡大を図り、ツアー企画やカーナビ等に反映させるとともに愛称を活用したＰＲに積極的に取り組んでいきます。

目　次

平成25年県政の主な出来事　ページ

1月 …… 2
2月 …… 4
3月 …… 8
4月 …… 16
5月 …… 20
6月 …… 24
7月 …… 26
8月 …… 30
9月 …… 32
10月 …… 34
11月 …… 40
12月 …… 42

空から見た石川 …… 44
石川県民の歌 …… 46

＜表紙写真＞
（上）北陸新幹線開業PRマスコットキャラクター「ひゃくまんさん」
（下）北陸新幹線新型車両

1月の主な出来事

13日 ●能登ふるさと博の開催（～3月3日、7月5日～10月19日）

15日 ●赤城畜産㈲の進出表明

28日 ●「いしかわ男女共同参画推進宣言企業」認定書の交付（3月28日、10月28日）

29日 ●高等学校卒業予定者合同就職面接会の開催（11月20日）

30日 ●石川県国民保護図上訓練の実施

能登ふるさと博の開催
（13日～3月3日、7月5日～10月19日）

能登の4市5町を会場に、「能登ふるさと博」を冬・夏合わせて、157日間にわたり開催し、北陸新幹線金沢開業に向けて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」などの魅力を全国に発信しました。

あぜのきらめき（輪島市）

キリコ祭り（七尾市ほか）

オープニングイベント（輪島市）

かきまつり（穴水町ほか）

赤城畜産㈲の進出表明（15日）

群馬県の赤城畜産㈲が能登町泉（旧内浦放牧場地内）に進出し、能登牛を生産するための肉用肥育牛舎などを建設することを表明しました。

常時500頭を飼養、年間300頭を出荷するとしており、これにより県が目標としてきた能登牛の年間1,000頭出荷のめどが立ちました。

「いしかわ男女共同参画推進宣言企業」認定書の交付
（28日、3月28日、10月28日）

今年度創設した「いしかわ男女共同参画推進宣言企業」として、県内に事業所のある31の企業・団体を初めて認定し、認定書を交付しました。

この制度は、男女共同参画の具体的な取り組みの推進を宣言する企業等を認定し、広報や各種情報の提供等によりその取り組みを支援するとともに、取り組み事例を広く県民の皆さまに紹介するものです。

この日の認定式では、鶴来信用金庫理事長の松浦俊和氏が代表して抱負を述べました。

また、取り組み意識の向上及びイメージアップを図るために公募し、決定したシンボルマークは、人を表す四つの図形が男女共同参画の「共」を、それを囲む輪図形が石川県の「い」をデザインしたもので、ひと・企業・社会の調和を表しています。

高等学校卒業予定者合同就職面接会の開催（29日、11月20日）

県内の高校卒業予定者を対象にした合同就職面接会を、県地場産業振興センターと県立音楽堂で開催しました。

この面接会は、就職を希望する高校卒業予定者が一人でも多く就職できるよう開催しているもので、参加した高校生たちは、県内各企業のブースでの説明に熱心に耳を傾け、緊張した面持ちで面接に臨んでいました。

平成25年は、1月と11月の計2回面接会を開催し、のべ58社の企業、148人の高校生が参加し、63人が内定を得ました。

２月の主な出来事

1日 ●金沢城・兼六園四季物語を開催（～3日・8日～17日、4月3日～9日、6月1日～2日、11月16日～17日・23日～24日）

2日 ●冬の観能の夕べ公演（23日）

3日 ●明日の石川の医療を担う若手医師の集いの開催

7日 ●イオンアグリ創造㈱による河北潟干拓地への農場開設表明

8日 ●いしかわ伝統工芸フェア2013を東京で開催（～10日）

●石川県産食材求評懇談会2013を東京で開催

10日 ●石川県危機管理フォーラムを開催

14日 ●平成24年産石川県産コシヒカリが米の食味ランキングで特Aに格付け

●いしかわ版里山づくりＩＳＯの認証（7月26日）

15日 ●第66回全国植樹祭の主会場が正式決定

18日 ●大学卒業予定者等合同就職面接会の開催（6月12日、8月28日、10月24日、12月25日）

金沢城・兼六園四季物語を開催
（～3日・8日～17日、4月3日～9日、6月1日～2日、11月16日～17日・23日～24日）

「金沢城・兼六園四季物語」は、金沢城および兼六園を舞台に四季折々の多彩なイベントを繰り広げるものです。そのうち、「金沢城・兼六園ライトアップ～冬の段～」を1日から計13日間の日程で開催しました。このライトアップは、春夏秋冬の季節に合わせて年に計4回開催しています。

期間中、無料開園となった兼六園内には、あんどんや竹灯籠などが約300基設置され、来園者は幻想的な光に照らし出されたことじ灯籠や雪づりに見入っていました。一方、金沢城公園では、河北門や五十間長屋などをライトアップしました。

明日の石川の医療を担う若手医師の集いの開催
（3日）

「明日の石川の医療を担う若手医師の集い」を、金沢市内で開催しました。

医師を志す若い医学生に対して、県内14の病院によるプレゼンテーションや意見交換会、個別相談等を行い、石川県内で医師として働く魅力をアピールしました。

イオンアグリ創造㈱による河北潟干拓地への農場開設表明（7日）

流通大手のイオン（千葉市）が、河北潟干拓地に全国で9カ所目となる約13ヘクタールの直営農場を開設することを表明しました。

これにより、イオンにとって新鮮で安全な野菜をより早く販売することができるようになることはもちろんですが、石川県産農産物にとって系列スーパーの流通網を通じて、全国への発信・販路拡大に繋がることとなります。

イオンでは、新規就農者の育成にも取り組んでいくこととしています。

いしかわ伝統工芸フェア2013を東京で開催（8日～10日）

いしかわ伝統工芸フェア2013を東京都内で開催しました。

今回で18回目となるフェアでは、九谷焼や加賀友禅、輪島塗など石川県の36業種の伝統的工芸品約3万点を展示・販売しました。

中でも企画展「女性に好まれるおしゃれ工芸」や欧州陶磁器と共同のテーブルコーディネート展が注目を集め、多くの来場者でにぎわいました。

今後とも、北陸新幹線金沢開業に向け、首都圏での「工芸王国石川」の魅力を十分にＰＲしていくこととしています。

大学卒業予定者等合同就職面接会の開催
（18日、6月12日、8月28日、10月24日、12月25日）

大学卒業予定者や若年者などの就職を支援するための合同就職面接会を、県産業展示館等で開催しました。

当日は相談コーナーなども設置し、個別相談にも応じました。

この合同就職面接会は、平成6年から実施しており、平成25年は5回にわたって開催しました。のべ493社の企業、1,493人の大学生や若年者らが参加し、205人が内定を獲得しました。

第 66 回全国植樹祭の主会場が正式決定（15 日）

２月15日、国土緑化推進機構との協議の結果、北陸新幹線金沢開業直後の2015年（平成27年）春に本県で開催される「第66回全国植樹祭」の主会場に、小松市の木場潟公園が正式に決定しました。

全国植樹祭は、国土緑化運動の中心的行事として1950年（昭和25年）に開催されて以降、毎年春に天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、高度経済成長の下での拡大造林の推進や緑とのふれあいの促進等、それぞれの時代の要請に応じた大会テーマで、各県持ち回りにより開催されています。

主会場に決まった木場潟公園については、１万人規模の参加者に対応できる十分な広さや交通アクセスなどの利便性、景観の良さ等から「適地」と判断されました。

県内での開催は、津幡町の県森林公園で開催された1983年（昭和58年）以来、32年ぶり２回目の開催となります。

２月15日第66回全国植樹祭会場決定協議

第66回全国植樹祭の開催地となる木場潟公園（小松市）（平成25年10月14日撮影）

３月の主な出来事

●県立中央病院の建て替えに向けた基本設計の取りまとめ（3月）、実施設計の着手（4月）

8日 ●いしかわ版道徳教材「ふるさとがはぐくむどうとくいしかわ（小学校中学年・高学年・中学校用）」を作成

15日 ●ＰＭ2.5の注意喚起情報提供制度の開始

18日 ●倉垣川砂防事業の完成

20日 ●金沢能登連絡道路直線化開通式

22日 ●中山間地域活性化フォーラムの開催

23日 ●金沢外環状道路海側幹線（Ⅲ期区間）の完成（暫定２車線）

24日 ●能越自動車道（七尾城山IC～七尾大泊IC間）開通式

25日 ●新幹線開業PR戦略実行プランの策定
●白山火山防災協議会の設立

26日 ●東御影川砂防事業の完成
●若松川１号谷砂防事業の完成

27日 ●石川県並行在来線経営計画の改訂
●辰巳用水附土清水塩硝蔵跡が国史跡に追加指定

28日 ●㈱モンベルの進出表明
●ほっと石川県民のつどい

29日 ●森喜朗氏に名誉県民称号を贈呈

30日 ●北陸新幹線金沢開業カウントダウンフォーラムの開催

31日 ●おもてなし推進大会の開催（7月20日）

県立中央病院の建て替えに向けた基本設計の取りまとめ（３月）、実施設計の着手（４月）

築後 30 年以上が経過し老朽化が進む県立中央病院の建て替えに向け、３月に基本設計を取りまとめました。

総病床数は 630 床、延べ床面積は現在の１．２倍となる約 62,000 ㎡で、１病床あたりの床面積は県内の高度医療機関の中でトップクラスとなります。病棟が十字の建物を２つ連結したようなツインクロス型であることが外観の特徴です。

一般病棟の全てのベッドサイドに十分な自然光がとれる窓を設けるほか、全国で初めて検査室と診察室を一体として配置した女性専用外来エリアを設置するなど、県独自の工夫を盛り込んでいます。

４月からは実施設計に取り組んでおり、高度専門医療と快適な療養環境を提供し、県民に信頼される高度専門病院を目指して、着実に取り組みを進めていきます。

新幹線開業ＰＲ戦略実行プランの策定（25 日）

県では、新幹線の開業効果を県内全域に波及させるため「新幹線開業ＰＲ戦略実行プラン」を策定しました。

本実行プランにおける誘客目標数は首都圏からの入込客数 500 万人で、開業前後の３年程度を重点期間とし集中的に事業に取り組みます。

また、「いしかわ百万石物語」をキャッチコピーとし、石川県の魅力である「おもてなし」「食文化」「歴史・景観」等のあらゆる資源を活用して、首都圏への効果的な情報発信と観光客を迎え入れる受け地での魅力づくりに戦略的に取り組むこととしています。

「いしかわ百万石物語」ロゴマーク

白山火山防災協議会の設立（25 日）

白山噴火時の避難等の火山防災対策を共同で検討するため、石川・岐阜両県の関係機関、気象庁などの国の機関で構成する「白山火山防災協議会」を設立しました。

11 月 26 日には第２回協議会を開催し、噴火による影響範囲のシミュレーションを承認するとともに、福井県の関係機関や国土地理院も新たに構成機関に加えました。今後も、さらなる関係機関の連携と防災体制の構築を図っていきます。

㈱モンベルの進出表明（28 日）

アウトドア用品の製造や販売を手掛ける㈱モンベルが羽咋市に物流・顧客管理機能をもつ新工場を建設することを表明しました。

総投資額は約 30 億円で、平成 26 年秋頃操業開始予定の新工場では、約 50 人の新規雇用が見込まれており、本県経済の活性化や雇用の拡大に貢献するものとして期待されています。

森喜朗氏に名誉県民称号を贈呈（29 日）

元内閣総理大臣森喜朗氏に石川県名誉県民称号を贈呈しました。

森氏は、内閣総理大臣をはじめ数々の要職を歴任し、我が国の発展に大きく貢献したことはもとより、北陸新幹線の建設、小松空港の国際化、金沢港大水深岸壁の整備、北陸先端科学技術大学院大学の開学、金沢大学の総合移転をはじめ、数多くの県政の大型プロジェクトを実現に導くなど、本県の発展に大きく貢献しました。

北陸新幹線金沢開業カウントダウンフォーラムの開催（30 日）

北陸新幹線金沢開業が２年後に迫り、県民一人ひとりに開業に向けた意識を高めていただくためのキックオフイベントとして、北陸新幹線金沢開業カウントダウンフォーラムが開催されました。

フォーラムは、県内経済団体などの代表者や有識者などで構成される「ＳＴＥＰ 21 県民推進会議」が主催し、鹿児島県指宿市観光協会による九州新幹線全線開業に向けた取り組みについての基調講演のほか、地域の魅力発信などに取り組む民間団体の代表者らによるパネルディスカッションなどが行われました。

このフォーラムには、一般県民をはじめ、観光業界や商工関係者など、定員 500 人を上回る約 650 人が参加しました。

直線化された「のと里山海道」大根布JCT付近（平成25年10月14日撮影）

金沢能登連絡道路 直線化開通式（20日）

3月20日、金沢能登連絡道路の直線化区間の開通式を行い、暫定２車線で供用を開始しました。直線化されたのは、金沢市粟崎町４丁目から内灘町大根布までの間で、周辺道路の渋滞緩和や金沢港への物流支援などを目的に、平成18年度より整備を進めてきました。

この直線化により、能登地域と金沢のアクセスが格段に向上するとともに、近年クルーズ船の寄港やコンテナ貨物の取扱量が増加している金沢港へのアクセスも大幅に強化されます。

また、能登方面から金沢駅周辺を目指す車は、大根布JCTで分散され、従来よりスムーズに各目的地に到着することができます。

引き続き、内灘町千鳥台からかほく市白尾間の４車線化整備を進めており、北陸新幹線金沢開業までの完成供用を目指すこととしています。

３月20日 金沢能登連絡道路 直線化開通式

金沢外環状道路 海側幹線（Ⅲ期区間）の完成（暫定２車線）(23日)

３月23日、組合土地区画整理事業と金沢市街路事業で整備を進めている金沢外環状道路海側幹線のⅢ期区間2.4ｋｍのうち、金沢市大友町－大河端（おこばた）町間の2.0ｋｍが暫定２車線で完成しました。

これにより、既に供用済の鞍月側の0.4ｋｍと合わせ、Ⅲ期区間全線の供用が開始されました。引き続き、４車線化工事を進めており、４車線での供用は北陸新幹線金沢開業に合わせ、平成27年３月の完成を目指しています。

また、平成24年度に県と金沢市で事業着手した金沢市大河端町から福久町間のⅣ期区間3.2kmについても、早期完成を目指して整備を進めています。

３月23日 金沢外環状道路海側幹線Ⅲ期区間開通（暫定２車線）

金沢外環状道路海側幹線Ⅲ期区間（平成25年10月14日撮影）

七尾大泊IC付近（平成25年10月14日撮影）

能越自動車道七尾氷見道路（七尾城山 IC ～七尾大泊 IC 間）開通式

3月24日、能越自動車道七尾氷見道路の七尾城山ICから七尾大泊IC間9.3ｋｍが無料区間として暫定２車線で供用開始しました。能越自動車道は、輪島市を起点として富山県砺波市に至る全長約100ｋｍの高規格幹線道路です。

今回完成した区間は、七尾市と氷見市を結ぶ同道路28.1ｋｍの一部で、石川県側では初の供用となります。

この供用により、七尾市から氷見市までの所要時間が短縮されるほか、大雨や越波（えっぱ）などで交通規制が頻繁に行われる国道160号の代替機能が確保されます。

七尾氷見道路は、平成26年度に全線供用を開始する予定です。

3月24日　能越自動車道（七尾城山IC～七尾大泊IC間）開通式

４月の主な出来事

1日 ●第6次「石川県医療計画」の策定

●石川県がん対策推進計画（第２次）の策定

●「石川県における水質源の供給源としての森林の保全に関する条例」の施行

●いしかわ健康フロンティア戦略2013の策定

●いしかわ師範塾の開講・「教員指導力向上推進室」を設置

●県の組織機構を改革
- 観光戦略推進部
  - 「観光交流局」を「観光戦略推進部」に改組
  - 「首都圏戦略課」および「首都圏誘客推進室」を新設（新幹線開業ＰＲ推進室を改組）
  - 「観光振興課」を新設（交流政策課および観光推進課を再編）
  - 「国際観光課」を新設
- 農林水産部
  - 森林管理課に「全国植樹祭推進室」を新設
- 土木部
  - 河川課の「ダム建設室」および「辰巳ダム建設事務所」を廃止

●河川堆積土砂の除去（128カ所）（～12月）

6日 ●百万石まちなかめぐりの開催（さくら）

10日 ●金沢港御供田国際コンテナターミナル（Ｉ期）の完成

27日 ●ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭2013の開催（～5月4日）

●いしかわグリーンウェイブ2013の実施（～6月2日）

●金大病院ＣＰＤセンターの開設

28日 ●寄り道パーキング寺家の完成

いしかわ師範塾の開講・「教員指導力向上推進室」を設置（1日）

本県教育の新たな研修体制のあり方を検討する「教員研修制度改革会議」での議論を踏まえ、研修体制の確立に向けた具体的な事業を実施するため「教員指導力向上推進室」を設置しました。

また、本県の教員をめざす学生や正規教員をめざす講師、現職教員、退職後の再任用を希望する教員を対象に、専門性向上のための質の高い研修を実施する「いしかわ師範塾」を開講しました。

平成25年度は、県内外の大学生および講師を対象とした実践的な講座を先行して実施しています。

いしかわ師範塾キャラクター「なるモン」

ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭 2013 の開催（27日～５月４日）

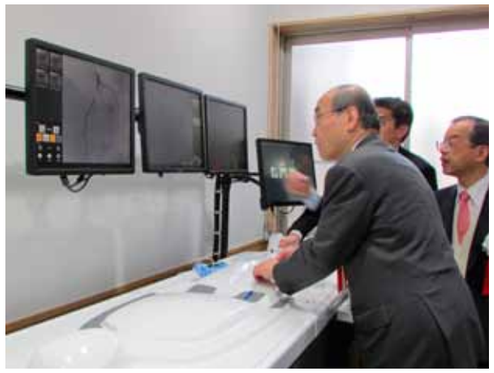
今年で６回目を迎えたラ・フォル・ジュルネ金沢は、「パリ、至福の時～フランスとスペインの音楽～」をテーマに開催され、北陸三県で国内外の一流奏者による計171の公演が行われ、８日間で約10万３千人が来場しました。

19世紀後半から現代まで、パリを彩ったフランス、スペインの作曲家たちの名曲演奏をはじめ、今回初めてシャンソンとフラメンコのステージが企画されるなど、クラシック音楽の枠にとどまらない多彩な音楽が繰り広げられ、街全体が「お祭り」ムード一色になりました。

金大病院ＣＰＤセンターの開設（27日）

金大附属病院内に若手医師等の研修拠点となる「金大病院ＣＰＤセンター」が開設されました。同センターは、本県の地域医療再生計画に基づき、県内医療関係者の専門能力の開発や生涯教育の充実を図ることを目的として設置されたものです。遠隔地からでも会議に参加できるＴＶ会議システムや内視鏡手術等の技能を習得することができるトレーニングシミュレーション機器を備えています。

完成記念式典では、地域医療体制の充実に期待を寄せる約140人が参加し、同センターと珠洲市総合病院をテレビ会議システムで結び、引き続き記念シンポジウムが行われました。



寄り道パーキング寺家の完成（28日）

珠洲市で初めてとなる寄り道パーキング「寺家」が同市三崎町寺家の県道大谷狼煙飯田線で供用を開始しました。

敷地面積は484㎡で、車５台分の駐車場や案内板、展望デッキを備えた直売所が整備されており、今後、観光客の増加とにぎわい創出が期待されます。

地元主催の完成を祝う会では、地元園児が参加し、谷本知事が「寺家」の文字を揮毫（きごう）したモニュメントを除幕したほか、地元特産品の振る舞いや地元の郷土芸能が披露され、完成を祝いました。

金沢港御供田国際コンテナターミナル（Ⅰ期）の完成（4月10日）

4月10日、金沢港御供田国際コンテナターミナルのトランスファークレーンをはじめとするターミナルⅠ期工事の完成式を金沢みなと会館で開催しました。

トランスファークレーンはコンテナをトレーラーの荷台に積み降ろしする荷役機械です。このクレーンを導入することにより、今まで2段しか重ね積みできなかったコンテナが、4段まで積むことが可能となり、現在使用している荷役機械に比べ積み降ろしスピードが格段に向上し、コンテナの取扱能力は従来より3割アップします。

完成式終了後、ターミナルの完成を祝いテープカットを行ったほか、トランスファークレーンの起動式も併せて開催しました。

県では、このターミナルの完成により、地元企業に“マイポート”として便利になった金沢港の利用を積極的に働きかけるなど官民一体となってさらなる国際物流拠点としての飛躍を目指していきたいと考えています。

4月10日　トランスファークレーン起動式

クルーズ船の寄港数および乗客数が過去最多（5月～10月）

5月～10月にかけて、平成24年の3倍となる18隻のクルーズ船が金沢港に寄港し、過去最多となる12，227人もの乗客が訪れました。

5月に寄港したサン・プリンセス号

金沢港クルーズ・ウェルカム・クラブの設立（4月）

金沢港の魅力を向上させ、クルーズ船のさらなる寄港やリピーターの増加に繋げるため、石川らしい「おもてなしの心」あふれる歓送迎行事を実施する県民によるサポータクラブ「金沢港クルーズ・ウェルカム・クラブ」を4月に設立しました。

トランスファークレーン

御供田国際コンテナターミナルが整備された金沢港付近（平成25年10月14日撮影）

5月の主な出来事

11日 ●都市計画道路「小松駅前線」れんが花道通りの完成

22日 ●石川県地域防災計画（原子力防災計画編除く）の修正（災害支援に係る民間事業者との協定締結推進等）

26日 ●辰口丘陵公園開園30周年記念イベントの実施

●女性消防団員専門知識向上セミナーの開催

29日 ●トキの自然繁殖成功

●世界農業遺産国際会議の開催（～6月1日）

31日 ●いしかわ産業化資源活用推進ファンド（活性化ファンド）の基金拡充

●浅野川放水路の放流量制限解除

都市計画道路「小松駅前線」れんが花道通りの完成（11日）

都市計画道路「小松駅前線」れんが花道通り（小松市土居原町～龍助町）が完成し、祝う会を開催しました。

同通りでは、街の空洞化に歯止めをかけ、商店街のにぎわい創出、駅へのアクセス強化を図るために、車道、歩道の拡幅や無電柱化を実施したほか、イベント広場を整備しています。

また、地元住民が中心となり、レンガを基調とした統一感のある街並みを形成しています。

石川県地域防災計画（原子力防災計画編除く）の修正（災害支援に係る民間事業者との協定締結推進等）（22日）

防災会議を開催し、石川県地域防災計画の見直しを行いました。今回の見直しでは、災害に対する即応力を強化するため、民間事業者との協定締結をさらに推進することとしたほか、複合災害に備えた体制の整備や訓練の実施等を明記しました。

また、緊急輸送道路については、救命活動に重点を置いた形で指定し直したほか、津波による沿岸の道路の浸水に備え、内陸部の道路を補完ルートとして追加指定しました。

辰口丘陵公園開園30周年記念イベントの実施（26日）

辰口丘陵公園が開園30周年を迎え、記念イベントを開催しました。

同公園は、親子がふれあい、楽しみながら体力づくりができる公園として昭和58年にオープンしました。

記念式典では地元保育園児や太鼓保存会が歌や演奏を披露したほか、地元アイドルグループのライブ、動物とのふれあいコーナー、グルメブースなどが、訪れた人々を楽しませました。

トキの自然繁殖成功（29日）

いしかわ動物園で、初めてトキの自然繁殖に成功しました。

分散飼育地での自然繁殖成功は、出雲市に次いで2例目となります。また、1ペアからの自然繁殖数では、国内最多となる4羽を記録しました。

自然繁殖とは、自然ふ化（卵が巣でふ化）、自然育すう（親の給餌で育ち、巣立つ）による繁殖です。

人工的に育てたトキより放鳥後もつがいになりやすく、繁殖の可能性も高いことが分かっており、県では今後も自然繁殖のトキを増やしていく予定です。

いしかわ産業化資源活用推進ファンド（活性化ファンド）の基金拡充（31日）

本県の豊かな食材、伝統工芸品などの地域資源を活用した新商品の開発などを支援する「いしかわ産業化資源活用推進ファンド」の基金を拡充しました。

活性化ファンドは平成20年度に200億円の規模で創設したもので、新たに、県内6金融機関と、県で計100億円を上積し、規模を全国最大の総額300億円に拡充することにより、事業の採択枠の拡大を図りました。

9月には今年度採択した82事業について、採択決定通知書の交付式を実施しました。

浅野川放水路の放流量制限解除（31日）

増水した浅野川の水の一部を犀川へ放流する「浅野川放水路」の放流量制限を解除しました。

浅野川は、上流にダムの適地がなく、浅野川の洪水を軽減するため、犀川と浅野川が一体となった治水対策として、上流部に両河川を結ぶ「浅野川放水路」を設けていますが、これまでは犀川の治水能力にあわせ、放水路の放流量を制限せざるを得ない状況でした。

県では、平成20年7月の浅野川における豪雨災害を契機に、犀川・浅野川の一体的・重点的な治水対策を進めており、今回の解除は、辰巳ダムの運用開始や河川改修の進捗により、犀川の治水能力が飛躍的に向上したことを受けたものです。これにより、浅野川から犀川への放流量が最大で毎秒150立方㍍から250立方㍍に増え、浅野川が増水した際に犀川により多くの水を放流し、氾濫を防ぐことが可能になりました。

世界農業遺産国際会議の開催（29日～６月１日）

５月29日～６月１日に、新たな世界農業遺産地域を認定する国際会議が、日本で初めて、七尾市和倉温泉を主会場に開催され、各国関係者により議論が繰り広げられました。

世界農業遺産は、国連食糧農業機関（FAO）が開始したプロジェクトで、土地の環境を生かした伝統的な農林漁法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化、景観などを地域システムとして一体的に保全し、次世代へ継承していくことを目的とするものです。国内では、平成23年に石川県の「能登の里山里海」と新潟県の「トキと共生する佐渡の里山」が認定されています。

今回の会議では、新たに、静岡県の「静岡の茶草場農法」、熊本県の「阿蘇の草原の維持と持続的農業」、大分県の「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」を含む３カ国６地域が認定されました。

▲能登の里山里海を代表する景勝地「白米千枚田」

▲ハイレベルセッション（30日）

30日には、世界農業遺産の認定を受けている４カ国（日本、中国、チリ、ペルー）と５つの国際機関（FAO等）によるハイレベルセッションが開催され、持続可能な世界に向けた世界農業遺産の貢献について議論が交わされ、記念シンポジウムをはさんで開催された全体セッションにおいて、認定地域間の連携促進などを柱とした共同声明「能登コミュニケ」が採択されました。

午後の記念シンポジウムでは、FAO事務局長であるジョゼ・グラツィアーノ・ダ・シルバ氏が世界農業遺産の意義について基調講演を行い、谷本知事によるプレゼンテーションでは、棚田で生産される米のブランド化など「能登の里山里海」における石川県の取り組みを紹介し、新たに本県の宝達志水町が認定地域へ加入することが報告されました。

▲「能登の里山里海」の利用保全を中心とした取り組みを紹介する谷本知事（30日）

続くパネルセッションでは、石川県観光大使で、七尾市出身の世界的なパティシエでもある辻口博啓氏や「DASH村」などの企画を手掛けた今村司氏らが能登の活性化について討論を繰り広げました。

▲辻口博啓氏も参加したパネルディスカッション（30日）

▼農業従事者との意見交換（30日）

さらには、谷本知事やシルバFAO事務局長が能登町の「春蘭の里」を訪れ、能登地域における農業などの実践者３名と懇談を行いました。懇談では、能登の農業や漁業における取り組み状況の説明の後、認定による変化や、行政に求める支援策などについて、意見交換が行われました。

県では、今回の会議を通して世界的に認知度が向上した世界農業遺産「能登の里山里海」の利用・保全の取り組みをさらに進めながら、地域の活性化につなげていくこととしています。

今回新たに静岡県、熊本県、大分県の３地域が世界農業遺産に認定されたことを受け、谷本知事と熊本県知事、大分県知事、静岡県知事代理の掛川市長が懇談しました。

懇談では、今後、認定地域の連携により相乗効果を発揮し、認定効果をさらに高めていくことができるよう、取り組みを推進していくことを確認しました。

また、「能登スマート・ドライブ・プロジェクト」の説明会も開かれ、谷本知事が、シルバFAO事務局長や加治屋農林水産副大臣らに、スマートフォンで観光情報を取得しながらプラグインハイブリッド車（PHV）で能登の里山里海をドライブする取り組みを紹介しました。

▲静岡の茶草場農法（静岡県）

▲阿蘇の草原の維持と持続的農業（熊本県）

▲クヌギ林とため池がつなぐ
国東半島・宇佐の農林水産循環（大分県）

６月の主な出来事

1日 ●がん安心生活サポートハウスの開設

●加賀四湯博～加賀温泉郷おもてなしプロジェクト2013～の開催（～9月30日）

●プラチナルート白山周遊キャンペーンの実施（～11月10日）

6日 ●石川県産業成長戦略検討委員会の設置

●「石川県消防マイスター」に５名を認定

●大学卒業予定者等マッチング促進事業の実施（～7日、8月23日、26日）

12日 ●「いしかわ耕稼塾」開講式

17日 ●コマツと「農業に関する包括連携協定」締結

18日 ●若者の男女共同参画推進事業 大学でのワークショップの開催（～12月11日）

23日 ●いしかわ子ども交流センタープラネタリウム「百万星」来場者10万人達成

28日 ●大沢１号急傾斜地崩壊対策事業の完成

●富谷砂防事業の完成

29日 ●自主防災組織の結成に向けた防災活動実践講座の開催（７月20日、10月19日）

がん安心生活サポートハウスの開設（1 日）

がんを治療しながら地域で生活する患者さんやご家族の立場に立った相談支援体制の充実を目的に、金沢市本多町の県社会福祉会館３階に開設しました。

施設では常駐の相談員（看護師）が患者さんやご家族と協働し、経験者の知恵や交流を活かした生活重視の相談の場を提供します。

石川県産業成長戦略検討委員会の設置（6日）

県を取り巻く情勢の変化に対応するため、今後 10 年間を見据えた新たな産業振興の指針を定める県産業成長戦略検討委員会を設置し、その第一回の会議が県庁で開催されました。委員会では、機械、繊維、食品、ＩＴの４業種と、業種を横断する人材、国際展開の２つのテーマの計６部会で策定作業を進めることが決定されました。

今後は、委員会での有識者による議論や、また県内の企業や団体からそれぞれの実情やニーズについて幅広く意見を聞き、平成 26 年春頃をめどに石川版の産業戦略をまとめる予定です。

「いしかわ耕稼塾」開講式（12 日）

プロ農業者から農業の応援団まで幅広い人材の育成を行う「いしかわ耕稼塾」の開講式を行いました。

初心者向けの「予科」に 30 人、自立経営を目指す「本科」・「専科」に 11 人、「経営革新スキルアップコース」に９人、そのほか「実践科」に 60 人の計 110 人の５期生が入塾しました。研修生は今後、１年間の研修を通して、農業や経営の技術、知識を学びます。

コマツと「農業に関する包括連携協定」締結（17 日）

収益性の高い農業経営の実現と新たな農業人材の育成を目的に、コマツと「農業に関する包括連携協定」を締結しました。

コマツとの連携により、製造業の生産管理ノウハウを活用し、収益性の高い新たな農業の生産・経営手法の検討・実証を行い、その成果を「農業版生産管理マニュアル」としてまとめ、「いしかわ耕稼塾」での研修に活用し、県内各地の就農者や担い手に普及していくこととしています。

自主防災組織の結成に向けた防災活動実践講座の開催（29 日、７月 20 日、10 月 19 日）

29 日、地域住民の共助の要となる自主防災組織の充実強化を図るため、自主防災組織が未結成となっている地域や、結成間もない地域の代表者（町内会長等）を対象に、自主防災活動に関する講義や実習を行う研修会をかほく市で開催しました。

研修会では、自主防災組織アドバイザーが、組織化に必要なことや活動事例について講義したほか、消防職員などによる防災マップ作成実習を行いました。

かほく市のほか、輪島市（７月 20 日）、能美市（10 月 19 日）でも同講座を開催しました。

7月の主な出来事

1日 ●小松空港国内線（羽田便・福岡便・仙台便）の増便・国際線旅客ターミナルビル増改修および国際線第2駐車場増設（7月・8月）
●犀川左岸浄化センターメタンガス発電による売電の開始
●いしかわ家庭版環境ＩＳＯ「省エネ・節電アクションプラン」の実施（～9月30日）
●いしかわクールシェアの実施（～9月30日）

3日 ●次世代自動車充電インフラ整備構想の公表

4日 ●東レ㈱の増設表明

5日 ●県民一斉防災訓練（シェイクアウトいしかわ）の実施

6日 ●自主防災組織リーダー育成研修会の開催（能登：～7日・27日～28日、8月3日～4日　加賀：8月10日～11日・17日～18日）
●「観能の夕べ」公演（13日・20日・27日、8月3日・10日・17日・24日・31日）
●北陸新幹線金沢開業実感ツアーの開催（9月7日）
●高校生のための企業ガイダンスの開催

7日 ●能登空港開港10周年記念行事の開催

8日 ●林業技術者の本格的な育成に向けた「あすなろ塾」の開講

13日 ●金沢城公園玉泉院丸休憩所起工式

16日 ●炭素繊維分野での研究開発に係る国の大型プロジェクトでの採択および協力協定の締結（3月7日、10月30日）

18日 ●安部龍太郎氏に石川県観光大使の委嘱状交付
●スバールバルライチョウの自然繁殖に成功

19日 ●神谷内急傾斜地崩壊対策事業の完成

23日 ●厚生労働省「戦略産業雇用創造プロジェクト」の採択
●障害者雇用シンポジウムの開催

26日 ●河北潟干拓地「ひまわり村」開村式

27日 ●能美東西連絡道路（湯谷町～石子町間）の完成
●石川県消防操法大会の開催
●ふるさとモット学び塾の開設

28日 ●県民津波フォーラムの開催（8月11日）

30日 ●子ども消防学校を開催（31日）
●地産地消受注懇談会2013の開催（夏：31日、秋：11月25日）

いしかわクールシェアの実施（1日～9月30日）

電力需要の高まる夏場に、家庭のエアコンなどを消して、公共施設や民間の商業施設などの涼しい場所に出かけることにより、家庭の電力消費を抑制する「いしかわクールシェア」を実施しました。「涼しいとこにつんだっていかんけ」をキャッチフレーズに、計331の施設や店舗にクールシェアスポットとして協力いただきました。

東レ㈱の増設表明（4日）

東レ㈱が、炭素繊維プリプレグの増産のために、石川工場敷地内にラインを増設することを表明しました。

投資規模は約30億円で、自動車部材やパソコン外板など産業用途の市場拡大に対応し、旅客機用途での需要増も見越して生産能力を倍増させるもので、平成27年2月の操業開始を予定しています。

県民一斉防災訓練（シェイクアウトいしかわ）の実施（5日）

東日本大震災において、「自助」の重要性が改めて認識されたことから、県民の災害対応能力と防災意識のさらなる向上を図るため、「県民一斉防災訓練（シェイクアウトいしかわ）」を実施しました。

参加登録者数は17万1297人で、県からのメールや校内放送等を合図に、県内各地の学校、会社、自宅などそれぞれの場所で同時刻に一斉に「しゃがむ」、「隠れる」、「じっとする」といった安全行動が実践され、県民の皆さまの防災に対する意識が高められました。

能登空港開港10周年記念行事の開催（7日）

能登空港が開港10周年を迎え、記念式典をはじめ、フォーラムや各種イベントなどの記念行事を開催しました。

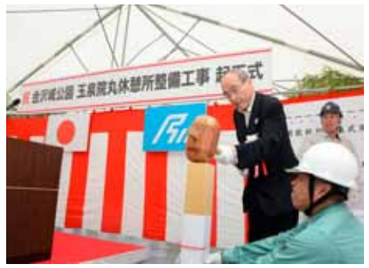
式典には関係者約400人が出席し、開港10周年を祝うとともに、今後とも能登空港の利活用に取り組む決意を新たにしました。

また、能登空港開港日に、自ら操縦する飛行機で「ゼロ番機」として着陸した経験を持つ落語家の桂文珍さんが講演したほか、10年間を振り返り、さらなる発展を目指すために意見を交わしました。

金沢城公園玉泉院丸休憩所起工式（13日）

金沢城公園で、玉泉院丸休憩所整備工事の起工式を行い、谷本知事をはじめ来賓の方々や関係者が工事の安全と無事に完成することを祈願しました。玉泉院丸庭園は、石垣や滝を取り入れた高低差22mにも及ぶ立体的で他に例を見ない城郭庭園です。

今回起工した休憩所は、無料の休憩室、案内所および呈茶のサービスが楽しめる和室で構成され、平成27年春の北陸新幹線金沢開業に合わせて庭園とともにオープンする予定です。



<＜完成イメージ図＞

炭素繊維分野での研究開発に係る国の大型プロジェクトでの採択および協力協定の締結（3月7日、7月16日、10月30日）

3月7日、これまでの炭素繊維の研究開発をさらに加速させるため、県内3大学（金沢工業大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学）と民間企業3社（東レ、コマツ産機、大和ハウス工業）とともに、文部科学省の「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」に採択されました。

また、7月16日には、炭素繊維をベースとした「低コストで環境にやさしい革新材料」の研究開発に関係機関が協力して取り組んでいくための協力協定を締結しました。

さらに、10月30日には、この新素材開発の研究費として、同省の「革新的イノベーション創出プログラム」にも採択されました。

今後は、これらを大きな原動力として、県外の大学や企業などとオールジャパンで連携を進め、本県が炭素繊維の一大生産・加工拠点となることを目指していきます。

▲研究開発の拠点となる「革新複合材料研究開発センター」完成予想図

小松空港国内線（羽田便・福岡便・仙台便）の増便・国際線旅客ターミナルビル増改修および国際線第２駐車場増設（7月・8月）

3月31日より国内線（羽田便・福岡便・仙台便）が増便されました。国内ネットワークの充実により、利便性がさらに向上することになりました。

7月8日には、国際線旅客ターミナルビル増改修および国際線第2駐車場増設を行いました。

出国待合室を従来の1.3倍の面積に、座席数では約90席増やす拡張を行ったほか、国際線の免税売店を移設リニューアルし売場面積を従来の1.3倍、品ぞろえを約3倍の2千点へ充実させました。

利用台数の増加により満車日が年間100日を超えていた国際線駐車場については、新たに第2駐車場を増設し、駐車台数を322台から658台に倍増させたほか、同じ時間帯における複数便の国際線に対応できるようにするため、国際線のボーディングブリッジも増設しました。

また、7月21日には、平成24年に国内最大級の大型遊具を導入した航空プラザの入館者数が200万人を達成しました。

国際線駐車場などが整備された小松空港（平成25年10月14日撮影）

８月の主な出来事

1日 ●石川県並行在来線株式会社の増資および「ＩＲいしかわ鉄道株式会社」へ社名変更

●地域医療再生計画の策定（8月）

●いしかわ若者就職バックアッププログラムの実施（8月～）

3日 ●石川県医学部進学セミナーの開催

●金沢城公園橋爪門上棟記念式

5日 ●里山里海人の知恵の伝承（～7日、10月27日）

●第66回全国植樹祭石川県実行委員会設立

7日 ●石川県地域防災計画（原子力防災計画編）の修正（3月27日）

11日 ●寄り道パーキング金蔵の完成

16日 ●2013いしかわミュージックアカデミーの開催（～25日）

20日 ●ぶどう「ルビーロマン」の知事によるトップセールスの実施（東京20日、大阪23日）

24日 ●第1回いしかわ百万石の集い

●いしかわ環境フェア2013/いしかわの里山里海展2013の開催（～25日）

25日 ●消防団員救助技術向上セミナーの開催

30日 ●小木高浜急傾斜地崩壊対策事業の完成

石川県並行在来線株式会社の増資および「ＩＲいしかわ鉄道株式会社」へ社名変更（1日）

北陸新幹線金沢開業後の並行在来線を運営する第三セクター「石川県並行在来線株式会社」が、増資と「ＩＲいしかわ鉄道株式会社」への社名変更を行いました。

新社名は、公募の中から決定したもので、皆さまに親しまれる「愛ある」鉄道を目指すという思いが込められています。ＩＲいしかわ鉄道は鉄道会社として、輸送の安全性を最優先に、利用者の利便性の確保や経営の安定化を図っていくこととしています。

金沢城公園橋爪門上棟記念式（3日）

金沢城公園にて関係者出席のもと橋爪門上棟記念式が行われました。

橋爪門は、二の丸御殿の正門であり、金沢城三御門（石川門、河北門、橋爪門）の中で唯一門の内部に「番所」が置かれるなど、最も格式の高い門とされています。

今回の整備では、くぎや金具などを使わない伝統的な工法で復元することとしており、工事に用いる壁板や平瓦に記念のメッセージを記入する寄進事業も行っています。北陸新幹線金沢開業予定の平成27年春には復元整備を完了することとしており、金沢城三御門がそろい踏みということになります。

本物志向の復元整備により金沢城の価値を一層高め、石川県のさらなる魅力の向上につなげていきたいと考えています。

第66回全国植樹祭石川県実行委員会設立（5日）

平成27年春に開催される第66回全国植樹祭の実行組織である「第66回全国植樹祭石川県実行委員会」の設立総会を開催しました。

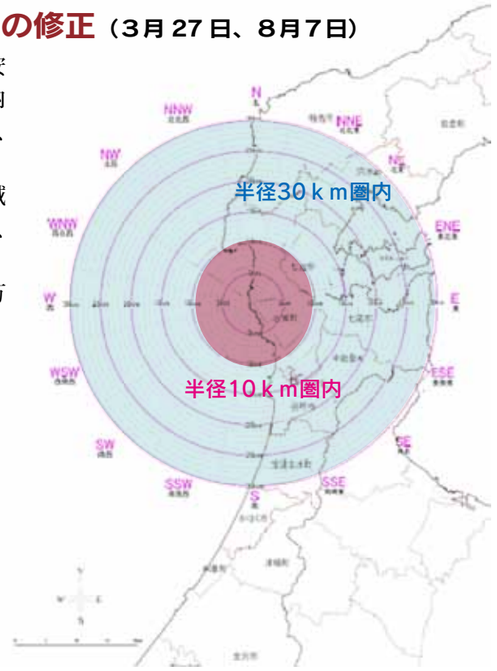
委員会では「森林資源の利活用の促進」をはじめ、西園地に新設する展望休憩施設からの白山眺望や、木を素材とする山中漆器、輪島塗などの伝統工芸の発信を進めていくことなどを確認しました。

石川県地域防災計画（原子力防災計画編）の修正（3月27日、8月7日）

石川県防災会議では、7日、県原子力防災計画を修正し、安定ヨウ素剤の事前配布に当たっては、志賀原発の半径5km圏内の住民に、県と志賀町が説明会を開催し、医師により、予防効果、服用の手順を説明することなどを追加しました。

また、3月27日には、志賀原発の重大事故に備える対策区域（UPZ）を原発の半径10ｋｍから30ｋｍに拡大するとともに、圏内住民の町会単位の具体の避難先をあらかじめ指定しました。

UPZの拡大により、避難の対象人口は約2万人から約15万人となります。



第１回いしかわ百万石の集い（24日）

首都圏で石川の魅力をアピールする「第1回いしかわ百万石の集い」を東京のハイアットリージェンシー東京で開催しました。

平成19年から開催してきた「首都圏いしかわ交流会」の規模を拡大し、石川県ゆかりの方との共催イベントとして新たに開催したもので、在京の県人やゆかりの人ら約600人が交流し、観光情報の発信や誘客で県と協力することなどについて意見を交わし、結束を深めました。

知事による県政の報告

参加者らによる交流活動

９月の主な出来事

6日 ●㈱ミスズライフの進出表明

●いしかわ里山創成ファンド助成事業19件採択

7日 ●オーケストラ・アンサンブル金沢設立25周年記念スペシャルコンサートの開催

10日 ●新幹線開業ＰＲ推進ファンドの創設

13日 ●ＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ推進ネットワークの設立

14日 ●のとじま水族館「夜の水族館」の開催（21日）

15日 ●都市計画道路「温泉中央南線」山中温泉ゆげ街道大生水通りの完成

17日 ●観光おもてなし塾の開催（17日～）

21日 ●金沢城公園橋爪門寄進事業「第１回記名会」（～22日）

27日 ●いしかわ百万石マルシェ2013を東京で開催

29日 ●兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク（～10月6日）

●企業と連携した世界農業遺産スタディーツアーの実施（11月23日）

㈱ミスズライフの進出表明（6日）

ブナシメジなどの農産物生産販売を行う農業法人ミスズライフの小林社長が県庁を訪れ、穴水町での植物工場建設を表明しました。

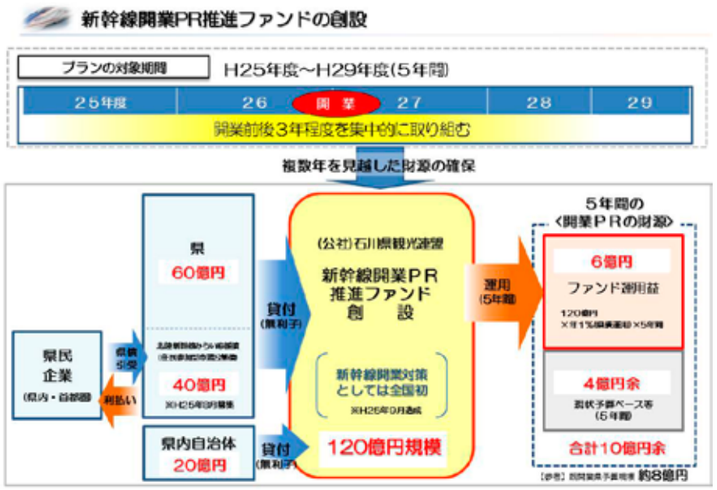
新設する工場では、ブナシメジを生産するとともに、菌床からつくる肥料を活用してベビーリーフなどを栽培するなどの環境配慮型の農業を行います。建設場所は、旭ヶ丘の能登ワインの近接地で、平成26年４月の着工、９月に生産開始を予定しています。

新幹線開業ＰＲ推進ファンドの創設（10日）

北陸新幹線金沢開業を控え、今後、集中的に開業ＰＲに取り組むための財源確保を目的に、県、市町、県民から資金を借り入れし、120億円の基金を創設しました。創設した新幹線開業ＰＲ推進ファンドは、平成25年度から５年間運用し、開業ＰＲ事業の財源を捻出します。

新幹線開業効果を県内全域に波及させるため、首都圏でのインパクトのあるキャンペーン展開や、旬の場所での情報発信のほか、石川の魅力を体感できる開業イベントや、北陸デスティネーションキャンペーンなどを行うこととしています。

オーケストラ・アンサンブル金沢による開業PRコンサート（JPタワー「KITTE」）



SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークの設立（13日）

国内における里山里海の保全やその持続可能な利用の取り組みを推進していくため「SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク」を設立しました。

「SATOYAMA イニシアティブ」は、人の営みを通じて形成・維持されてきた里山里海などの二次的自然環境における生物多様性の保全やその持続可能な利用の促進を図るため、国際連合大学高等研究所や環境省が中心となって提唱している取り組みです。

ネットワークには、企業、民間団体、研究機関、行政など101の団体が参加し、谷本知事と福井県知事が共同代表に就任するとともに、多様な主体がその垣根を越えて、交流・連携・情報交換を図るためのプラットホームを構築していくことを確認しました。

今後は、ネットワークの活動を通じて、里山里海の利用・保全の取り組みが国民的な取り組みになるよう、その裾野拡大と質の向上に貢献していくこととしています。

設立総会であいさつする谷本知事（福井県、国際交流会館）

観光おもてなし塾の開催（17日～）

観光業界の方々に北陸新幹線金沢開業に向けて、「おもてなし」を実践するためのノウハウを学んでいただく観光おもてなし塾を開講しました。

初回となる17日は、谷本知事が激励したほか、フリーキャスターの横田幸子さんが講演し、参加者は「おもてなし」の心を学びました。

今年度、４年目の実施となる観光おもてなし塾は、全６回、旅館ホテルやタクシーの従業員ら22人が参加しました。

いしかわ百万石マルシェ 2013 を東京で開催（27日）

県内の生産者等が首都圏のホテル・レストラン等のシェフやバイヤーに自らの食材を売り込む「いしかわ百万石マルシェ」をホテルメトロポリタンエドモントで開催しました。

平成18年から毎年開催してきた「県産食材求評懇談会」を、平成27年春に迫った北陸新幹線金沢開業を見据え、名称を改めたものです。

当日は県内の農業法人やＪＡ、漁協など25団体・個人が出展し、加賀・能登野菜、能登牛、新鮮な水産物など魅力ある食材を訪れた多くの首都圏の飲食業者や食品・流通業者、観光業者に売り込みました。

10 月の主な出来事

1日 ●不法投棄等防止強化月間（10月）において隣県と連携した取り組みを実施
●いしかわエンゼルマーク運動の開始
●いしかわ米粉食べまっしキャンペーンを実施（～11月30日）
●「いしかわエコデザイン賞」受賞者の「2013年度グッドデザイン賞」の受賞
2日 ●北陸新幹線の運行体系の概要と列車名の決定（10日）
3日 ●石川県埋蔵文化財センター入館者20万人達成
4日 ●いしかわ動物園へのコビトカバ（オス）の受入れ・記念式典（19日）
5日 ●世界農業遺産「能登の里山里海」などの利用・保全の推進（9日・12日～14日・18日・23日～29日、11月25日～27日）
●地域伝統芸能全国大会「日本の祭りin石川2013」の開催（～6日）
●第35回石川の農林漁業まつりの開催（～6日）
6日 ●第41回石川の技能まつりを開催
11日 ●JR野々市駅南口広場完成記念式
14日 ●石川県政記念しいのき迎賓館入館者200万人達成
17日 ●能美古墳群が国史跡に追加指定・統合・名称変更
18日 ●救急搬送における消防防災ヘリコプターの運用を開始
19日 ●ふるさと石川の医療を守る集いin能登の開催（～20日）
22日 ●いしかわ新幹線部の発足
●ひゃくまんさん（石川県北陸新幹線開業PRマスコットキャラクター）のお披露目
●㈱スギヨファームの進出表明（12月12日）
23日 ●北陸新幹線金沢開業カウントダウン時計の配信
25日 ●第60回日本伝統工芸展金沢展開催（～11月3日）
26日 ●百万石の菓子文化・いしかわスイーツ博2013の開催
●サービスエリア、パーキングエリアリニューアル工事の完成（志雄PA、西山PA）
27日 ●海女文化の振興に向けた懇談会の開催
29日 ●第16回全国農業担い手サミットinいしかわの開催（～31日）
31日 ●石川のこだわり商品フェア2013の開催（～11月4日）

「いしかわエコデザイン賞」受賞者の「2013年度グッドデザイン賞」の受賞（1日）

県では、平成23年に創設した「いしかわエコデザイン賞」を活性化し、環境保全に役立つ優れた製品・サービスの普及を図るため、平成25年度から、いしかわエコデザイン受賞者に対してグッドデザイン賞への応募支援を行うこととしました。今回、小松精練㈱の「グリーンビズ」（いしかわエコデザイン賞2011製品領域大賞）と、石川中央魚市㈱の「石川の朝とれもん」（いしかわエコデザイン賞2012サービス領域金賞受賞）の2社が、見事グッドデザイン賞を受賞しました。

また、平成24年度から運用を開始している「いしかわ住まいの省エネパスポート制度」も2013年度グッドデザイン賞を受賞しました。この制度は、住まいの省エネ性能を評価して「パスポート」として認定する仕組みで、本県で建築される住宅の省エネ度アップに貢献しています。

世界農業遺産「能登の里山里海」などの利用・保全の推進（5日・9日・12日～14日・18日・23日～29日、11月25日～27日）

県と能登4市5町、関係団体で構成する世界農業遺産活用実行委員会は、佐渡との交流・連携の強化のため、能登と佐渡の農業者や子どもの交流を行うとともに、地域で「聞き書き」に取り組む高校生の交流事業を実施しました。

9日には、首都圏において「能登の里山里海」の質の高い情報を提供するため、首都圏のカルチャーセンターと連携し、第1回能登の里山里海の連続講座「のと學び」を開催しました。

そのほか、23日からは首都圏消費者に「能登の里山里海」の食の魅力を発信するため、日本橋三越本店で、「能登の里山里海フェア」を開催しました。

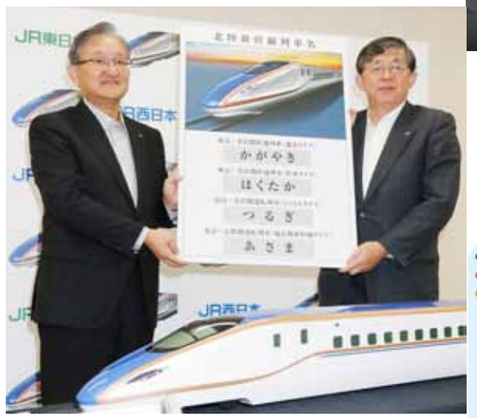
聞き書き

能登の里山里海フェア

北陸新幹線の運行体系の概要と列車名の決定（2日、10日）

2日、ＪＲ西日本の真鍋社長が知事室を訪れ、平成27年春に開業する北陸新幹線東京・金沢間の運行体系の概要が報告されるとともに、10日には、それぞれの列車名が発表されました。

東京・金沢間を、停車駅を限定して運行される速達タイプは「かがやき」、東京・金沢間を多くの駅に停車して運行されるタイプは「はくたか」となり、これらに加えて、富山・金沢間を往復するシャトルタイプの列車が導入され、名称は「つるぎ」となりました。



また、「はくたか」は、スピード感があり、首都圏と北陸をつなぐ列車として親しまれていること、「つるぎ」は、かつて北陸と関西を結んだ列車としてなじみ深いことが選定理由となっています。

なお、東京・長野間で運行される現長野新幹線タイプは現行と同じ「あさま」となっています。

「かがやき」は、輝く光がスピード感と明るく伸びていく未来をイメージさせることに加え、かつて北陸と東京を結んでいた列車の名称でもあり、なじみのあるものとなっています。

いしかわ動物園へのコビトカバ（オス）の受入れ（4日）・記念式典（19日）

いしかわ動物園では、平成24年4月に日本海側の動物園では初めて、世界三大珍獣とされるコビトカバ（メス）を導入しましたが、動物園のさらなる魅力の向上と世界的に希少なコビトカバの種の保存を目的として、つがいで飼育するため、4日にシンガポール動物園からコビトカバ（オス）の提供を受けました。

19日には記念式典を開催し、一般公開が始まり、一般公募の結果、愛称を「ヒカル」に決定しました。

日本海側の動物園では初となる繁殖を目指しており、近い将来、コビトカバ2世の誕生が期待されます。

地域伝統芸能全国大会「日本の祭り in 石川 2013」の開催（5～6日）

高円宮憲仁親王妃久子殿下のご臨席のもと、地域伝統芸能全国大会「日本の祭り in 石川 2013」を開催しました。10月5日、6日の2日間にわたり、メーン会場である本多の森ホールをはじめ、石川県立音楽堂および金沢城公園のサブ会場には多くの来場者でにぎわいました。

なお、本県からは、輪島市の御陣乗太鼓保存会が高円宮殿下記念地域伝統芸能賞を、白山市のかんこ踊保存会が地域伝統芸能大賞活用賞を受賞しました。

今回、『日本の文化を「いしかわ百万石物語」とともに』をテーマに開催したこの大会は、国内外の多彩な祭りや踊り、伝統芸能が一堂に集まって競演する全国規模のイベントで、第1回大会が平成5年に本県で開催されて以来、21回目、本県では2回目の開催となります。

昨年度の福島県に次いで多い国内外59の出演団体が演技を披露しました。

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞
御陣乗太鼓保存会（輪島市）

地域伝統芸能大賞活用賞
かんこ踊保存会（白山市）

救急搬送における消防防災ヘリコプターの運用を開始（18日）

消防防災ヘリコプターを活用した能登北部地域等の重傷患者の救急搬送の本格運用を開始しました。前日の17日には、金沢で県立中央病院の医師・看護師が同乗し、珠洲の患者を県立中央病院に運ぶ予行練習を行いました。

予行演習では、小松空港のヘリコプターが要請を受け、患者を搬送するまでの所要時間は2時間を切り、救急車に比べ1時間程度の時間短縮効果が実証されました。

ひゃくまんさん（石川県北陸新幹線開業 PR マスコットキャラクター）のお披露目（22日）

22日に行われた北陸新幹線の開業対策を考える全県的な組織「ＳＴＥＰ２１県民推進会議」では、観光施策などについての意見が交わされ、会議中に、石川県北陸新幹線開業ＰＲマスコットキャラクター「ひゃくまんさん」が初めてお披露目されました。

イベント等への出演の際には、フリーアナウンサーの茂木久美子さんがお仕えし、言葉を話さない「ひゃくまんさん」の気持ちを代弁します。

「ひゃくまんさん」は輪島塗、金沢箔、加賀友禅、九谷五彩など石川の伝統工芸をふんだんに盛り込んだデザインとなっており、背中には「石川県」と書かれています。

㈱スギヨファームの進出表明（22日、12月12日）

22日、㈱スギヨファームが、奥能登で初となる新農場を穴水町に平成26年3月に設けることを表明しました。

新農場は、農地9ヘクタールから始め、数年後には20ヘクタールへ増やす予定です。生産するものは、サツマイモやニンニク、ソバなどで飲食店などに販売するほか、ソバに製麺するなどの加工も行います。

また、12月12日には、改めて知事室を訪れ、志賀町への進出を表明しました。平成26年4月の営農開始を目指し、16ヘクタールで、リンゴやブドウのほか、ゴマやショウガを生産し、将来的には、薬膳料理を提供する施設を整備することとしています。

海女文化の振興に向けた懇談会の開催（27日）

この懇談会は、26日、27日の両日に輪島市で開催された「全国海女サミット2013in わじま」に併せて開催されたもので、大会にはドラマ「あまちゃん」の舞台で知られる岩手県久慈市や国内最多の海女がいる三重県のほか、韓国済州島など国内外12カ所の海女160人を含む1200人の方々が集いました。

石川・三重の両県知事と、鳥羽・志摩・輪島の3市長が懇談し、両県が海女漁振興に向け、海女文化の発信や商品開発などについて協力して進めていくことを確認しました。

第 16 回全国農業担い手サミット in いしかわの開催（29 日～ 31 日）

10 月 29 日から 31 日までの３日間にわたり、いしかわ総合スポーツセンターを主会場として、皇太子殿下ご臨席のもと、第 16 回全国農業担い手サミット in いしかわが開催されました。

全国農業担い手サミットは、全国の意欲ある農業の担い手が一堂に会し、相互研さん・交流を通じて農業経営の現状や課題についての認識を深め、経営改善や地域農業・農村の発展に向けて開催する全国規模のイベントです。全国から参加された２千人を超える担い手の方々が交流を深めるとともに、「伝えよう！担い手の心 広げよう！農の絆」をテーマに、活発な議論が交わされました。

▲全体会でお言葉を述べられる皇太子殿下

▲担い手農家３分間メッセージ

▲北陸新幹線金沢開業PR

▲歓迎アトラクション

▲全国優良経営体表彰・農林水産大臣賞表彰式

▲青年農業者とご歓談

▲能登空港（輪島市）

▲農家民宿「春蘭の宿」（能登町）

皇太子殿下のご来県は、平成 18 年８月の「第 14 回日本ジャンボリー」以来およそ７年ぶりで、浩宮殿下時代を含めて 10 回目となりました。

また、今回は大会にあわせ、２日間にわたり春蘭の里や能登演劇堂、県西田幾多郎記念哲学館といった県内の文化施設などをご視察され、本県に対するご理解を、より一層深めていただく機会となりました。

▲春蘭の里（能登町）

▲能登演劇堂（七尾市）

▲能登演劇堂（七尾市）

▲県西田幾多郎記念哲学館階段庭園（かほく市）

▲県西田幾多郎記念哲学館展示室（かほく市）

11月の主な出来事

1日 ●いしかわパープルリボンキャンペーン2013（～30日）

●「いしかわ教育ウィーク」で各種事業を実施（～7日）

2日 ●石川県防災総合訓練の実施

4日 ●ＪＢＣ競走の金沢開催

●主要地方道金沢井波線（清水・田島工区）の完成

6日 ●県立音楽堂入場者300万人達成

9日 ●一般国道249号（大泊道路）の完成

●アメリカ楓通り　ライトアップ開始

●市道まがき線（仮称）まがきトンネル起工式

10日 ●能越自動車道輪島道路起工式

12日 ●第6回アパレル産業連絡懇談会の開催

14日 ●日機装㈱の進出表明

●石川県台湾観光物産展の開催（～19日）

15日 ●百万石まちなかめぐりの開催（もみじ：～17日）

16日 ●石川県原子力防災訓練の実施

●女性による地域防災力向上フォーラムの開催

17日 ●「いしかわ食のてんこもりフェスタ」の開催

22日 ●家畜伝染病防疫訓練の実施

24日 ●珠洲道路（小木ノ又工区）Ⅰ期区間の完成

●第2回日米交流県民フォーラムの開催

26日 ●ＩＲいしかわ鉄道利用促進協議会の開催

ＪＢＣ競走の金沢開催（4日）

地方競馬最大のレース「ＪＢＣ（ジャパン・ブリーディングファームズ・カップ）」が4日、金沢競馬場で初開催されました。

しかも、レースの格が最も高いＧⅠが1日に3レース行われるという全国初の内容に、1万2569人ものファンが声援を送りました。

馬券売上額は過去最高の25億円となり、昨年度の売り上げの約3割超えとなりました。

レースには、日本中央競馬会（ＪＲＡ）の馬も出走し、史上初・史上最年少などデビュー以来数々の輝かしい記録を打ち立てた武豊選手も出場しました。金沢競馬からは吉原選手ら4選手も出場し、地元ファンの声援を受け奮戦しました。

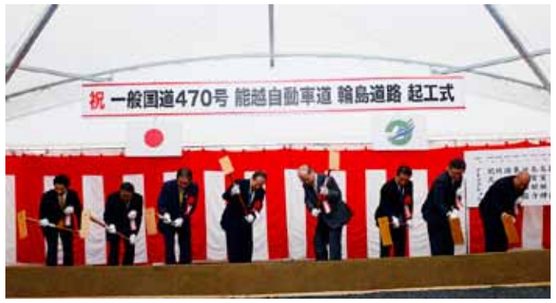
県立音楽堂入場者300万人達成（6日）

開館13年目となる石川県立音楽堂で、入場者数300万人達成記念セレモニーを開催しました。

県立音楽堂は、平成13年9月12日のオープン以降、多くの方々にご来場いただき、記念すべき300万人目は金沢市在住のご夫婦となりました。

同音楽堂は、オーケストラ・アンサンブル金沢（ＯＥＫ）の本拠地でもあり、平成17年11月に入場者100万人を、平成21年12月には入場者数200万人を達成しています。

能越自動車道輪島道路起工式（10日）



輪島市三井町において一般国道470号能越自動車道輪島道路（三井IC（仮称）から能登空港IC間4.7km）の起工式が行われました。

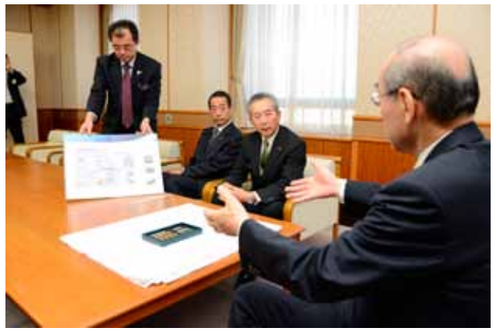
開通後は、能登地域と三大都市圏との交流の促進や能登空港の利便性向上、災害に強い道路ネットワークの形成、救急搬送時間の短縮など能登の活性化に大きく寄与することが期待されます。

日機装㈱の進出表明（14日）

医療機器・航空機部品メーカーの日機装㈱の甲斐敏彦社長が知事室を訪れ、白山市への進出を表明しました。

新工場「深紫外線ＬＥＤ工場」は、白山市の旭工業団地内にある白山機工の工場跡に整備し、技術開発の拠点としての役割も果たすことになります。

医療関連の殺菌処理などに使われる新型の発光ダイオード（ＬＥＤ）を世界で初めて量産します。



石川県原子力防災訓練の実施（16日）

サーベイメーターを使用した汚染の有無の検査（スクリーニング）

テレビ会議

漁船による住民の避難

海上自衛隊による物資輸送

志賀原発30km圏内において、石川県原子力防災訓練を実施しました。

住民の避難ルート沿いの3カ所にスクリーニングポイントを設け、避難者の放射性物質による汚染の有無を調べるスクリーニングや除染の訓練を行いました。

現地の対策拠点となる志賀町のオフサイトセンターでは、自治体や関係機関の職員らが情報伝達と状況確認の手順を確認しました。

また、今回が初となるテレビ会議を開催し、県庁や原発30km圏内の8市町を結んで、各首長が避難態勢などを報告しました。

そのほか、七尾市半ノ浦港から住民が漁船やボートにより七尾港へ避難したのをはじめ、輪島港マリンタウンでは海上自衛隊多用途支援艦「ひうち」が接岸し、救援物資を搬送しました。

12 月の主な出来事

1日 ●主要地方道鶴来美川インター線の完成

6日 ●IRいしかわ鉄道株式会社が鉄道事業の許可を申請

7日 ●自主防災組織交流大会の開催

8日 ●主要地方道金沢美川小松線（徳光町～小川町）４車線化の起工式

12日 ●日本ガイシ㈱の増設表明

●いしかわエコデザイン賞を贈呈

●世界農業遺産国内認定地域と連携した首都圏PR（エコプロダクツへの出展）（～14日）

19日 ●ライフサイエンス分野における研究開発を支援する国の大型プロジェクトでの採択（7月1日）キックオフフォーラム（19日）

21日 ●金沢外環状道路海側幹線（Ⅱ期区間）の完成（白山市乾町～五歩市町間 4車線化）

25日 ●地球温暖化防止優良活動表彰式および活動報告会　ほっと石川県民のつどいの開催

●ふるさと能登就職フェアおよびのと就職フェアの開催（～26日）

主要地方道鶴来美川インター線の完成（1日）

県道鶴来美川インター線（白山市道法寺町～知気寺町間１．２ｋｍ）のバイパス工事が完成し、白山市知気寺町で開通式を行いました。

これにより、昭和60年から進めてきた鶴来美川インター線のすべての整備が終わり、白山市を東西に結ぶ10.1ｋｍの大動脈が完成しました。

式典では、テープカットやくす玉開披のほか、地元幼稚園児による楽器演奏が披露され、多くの関係者らが開通を祝いました。

日本ガイシ㈱の増設表明（12日）

日本ガイシ㈱の加藤太郎社長が、能美市にある石川工場での自動車セラミックスの生産ライン増設を表明しました。現在の年間800万個の生産能力にくわえ、今回新たに500万個の生産能力を持つ一貫生産ラインを増設することで、約６割増となる年間1300万個の生産が可能になります。そのほかにも、倉庫や出荷用建屋を増築します。

新たに増設する設備には、省スペース・省人・省エネに向けて開発した最先端の生産技術を投入し、従来に比べ、面積当たり約２倍の生産量となり、年間2700トンの二酸化炭素削減が可能となります。

日本ガイシ石川工場は、平成26年５月の着工、平成27年７月の稼働を予定しています。

世界農業遺産国内認定地域と連携した首都圏PR（エコプロダクツへの出展）（12日～14日）

東京ビッグサイトでの国内最大級の環境展示会「エコプロダクツ」に世界農業遺産PRブースを出展し、世界農業遺産の意義や魅力を発信しました。

ブースでは、国重要無形民俗文化財「あえのこと」を再現したレプリカや能登棚田米を展示したほか、世界農業遺産に関するプレゼンテーションを実施しました。

今回の出展は、能登と同時期に認定された新潟県佐渡市、５月の世界農業遺産国際会議で新たに認定された静岡県、熊本県、大分県と連携し、５地域共同で、首都圏で初めて世界農業遺産のPRを行うもので、３日間にわたり多くの方々が訪れました。

ライフサイエンス分野における研究開発を支援する国の大型プロジェクトでの採択（7月1日）・キックオフフォーラム（19日）

19日、金沢市内のホテルで、「北陸ライフサイエンスクラスター」事業のキックオフフォーラムを開催し、谷本知事をはじめ研究者、企業のトップなどが出席しました。

この事業は、北陸三県が共同で医薬品や機能性食品、医療機器の開発に取り組むもので、７月１日に文部科学省の「地域イノベーション戦略支援プログラム」に採択されました。

本事業では、北陸三県で約７億円が５年に渡って国から助成され、石川県は、血液検査により、難しいとされるすい蔵がん等の早期発見が可能な診断法の確立などを目指します。

北陸三県の医薬品・医療機器の生産額は2012年に約7700億円、全国シェアは８．７％となっており、2020年までに１兆円超、シェア10％に引き上げることとしています。

今後は、北陸三県で予防・診断・治療まで一体的に取り組むことで、北陸に医療産業の拠点を形成し、県民の健康増進に繋げていくことを目指します。

金沢外環状道路海側幹線（Ⅱ期区間）の完成（白山市乾町～五歩市町間 4車線化）（21日）

金沢外環状道路海側幹線Ⅱ期区間（白山市乾町～五歩市町間1.3km）の４車線化が完成し、21日の午後、供用を開始しました。

２車線で暫定供用していた同区間の４車線化で、今回、Ⅰ・Ⅱ期区間を合わせた金沢市鞍月～白山市乾町間の10.3kmがすべて４車線となりました。

これにより、金沢市街地等における交通分散がこれまで以上に期待されるほか、周辺道路の交通の円滑化や、さらには加賀・金沢・能登の広域交流が促進されるとともに、小松空港や金沢港などの物流拠点との連携が一層強化されました。

空から見た石川

平成27年春の北陸新幹線金沢開業が迫っています。
平成26年春には長野・金沢間のレールが連結され、先行開業している東京・長野間と合わせ全長約462ｋｍにわたる1本につながります。また、石川県の玄関口となる新幹線金沢駅舎の新築工事は、平成26年9月の完成を目指して工事が進んでいます。

金沢・敦賀間については、平成37年度の完成予定となっていますが、沿線県等と連携し、工期短縮による早期開業を国に働きかけるとともに、用地取得に万全を期すこととしています。

提供：JR東日本
北陸新幹線用新型車両 E7系

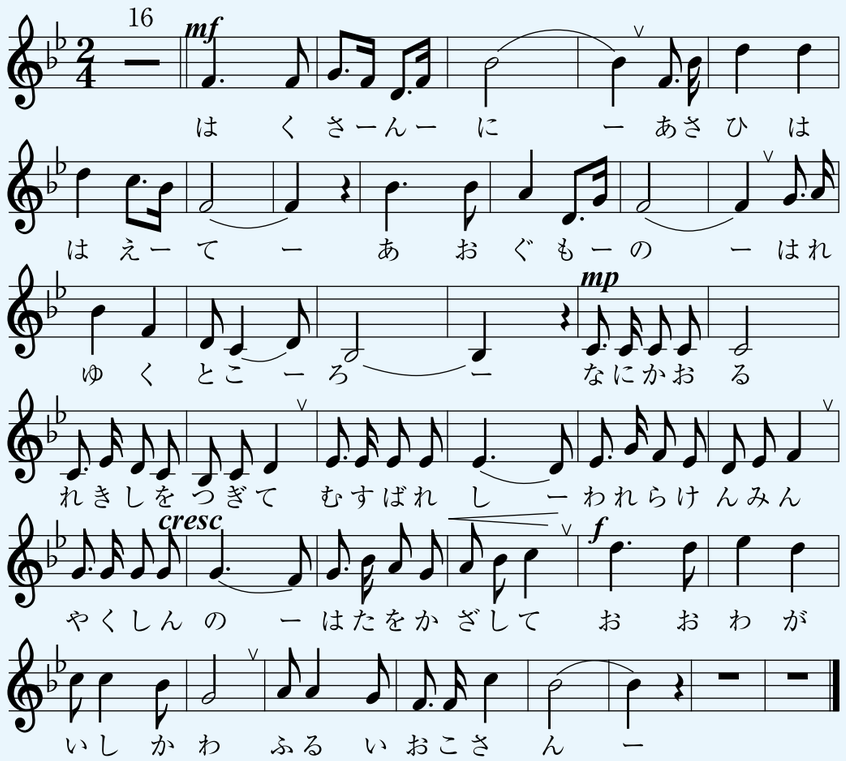
整備が進む北陸新幹線金沢駅舎ホーム階

JR金沢駅付近（平成25年10月14日撮影）

石川県民の歌

行進曲風に

梅木宗一 作詞
窪田新一 作曲



一、
白山に
青雲の
名にかおる
むすばれし
躍進の
おおわが石川

朝日ははえて
はれゆくところ
歴史をつぎて
われら県民
旗をかざして
ふるいおこさん

二、
加賀平野
海山の
うちつどう
工芸の
はるかなる
おおわが石川

能登半島に
さち呼ぶところ
ちまたに野辺に
花咲きにおい
稲田はみのる
ひらきのばさん

三、
日本海
希望の日
いでゆわき
この国土
人の和に
おおわが石川

北にひらけて
明けゆくところ
地はゆたかなり
いよよ栄えて
世界を結ぶ
歌いたたえん

（昭和34年11月3日制定）

石川県旗

（昭和47年10月1日制定）

「石川」の文字と石川の地形をデザイン化したものです。地色の青は、日本海と豊かな緑・清い水・澄んだ空気という石川の恵まれた自然環境を表しています。

郷土の花　クロユリ

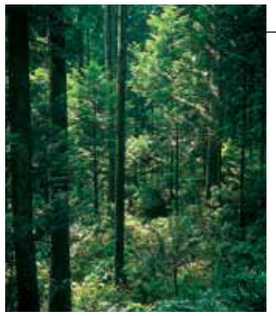
（昭和29年3月19日）

NHKが「郷土の花」として選んだもの。白山の弥陀ヶ原、室堂平（標高2,300～2,500m）付近に多く自生しています。風雪に耐えて咲くかれんな姿は、広く県民から親しまれています。

県鳥　イヌワシ

（昭和40年1月1日指定）

白山連峰に生息する日本最大級のワシで、英語でジャパニーズ・ゴールデン・イーグルと呼ばれています。翼を広げると２mにもなる雄々しい姿と勇猛果敢な性格は、ますます躍進する石川県を象徴しています。
撮影：須藤一成



県の木　あて

（昭和41年10月1日指定）

緑の環境づくりと木を愛する心を広めようと、県民のみさなんから募集して定めました。能登地方に多く生育するヒノキアスナロで、北陸地方では「あて」と呼んでいます。家具や建築材、輪島塗の素材にも多く使われています。

平成25年（2013）県政記録 いしかわ

発　行　平成26年3月

発行者　石川県広報広聴室
〒920-8580 金沢市鞍月１丁目１番地
電話 076（225）1362

石川県ホームページ内
http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/kouhou/kenseikiroku/index.html

2013

県政記録　いしかわ

ほっと石川